

都市住民との農村交流拠点

信州みよた

クラインガルテン大星の杜・面替

開園から一周年、これまでの施設整備に向けた歩みと今後の取り組みについてお知らせします

問い合わせ先
産業経済課農政係
(32)3113

「クラインガルテン」とは

「クラインガルテン」とは、ドイツ語を語源とし、滞在型市民農園として、都市住民と農村住民との農業体験を通じて農村交流の拠点施設です。

一般的な「市民農園」と異なる点は、「ラウベ」という滞在可能な簡易宿泊施設が専用農園内に整備されている点です。そのため、週末を利用した農業や農村滞在が可能であることから、昨今の田舎暮らしや農村生活を求める都市住民の方からの注目を集めています。また、クラインガルテン利用者や農村交流体験者、地域住民の皆さまなどが様々な用途で更なる交流を深める場として、交流施設が併設されています。



ラウベ(簡易宿泊施設)と専用農園

交流施設は、クラインガルテン利用者または、農村交流体験者と町民の皆さまが交流を目的とした用途であれば、どなたでもお使いいただけます(使用料がかかります)。

施設整備に向けたこれまでの歩み

御代田町の人口は緩やかな増加傾向を維持しているものの、農村地域の過疎化や限界集落化が懸念されています。こうした課題に取り組むため、

昨今の都会からの「田舎暮らし・農村生活」をキーワードとしたニーズを地域の活性化に結び付け、都市住民の皆様と農業体験等とおした交流人口の創出や移住・定住の促進を目的に、国の農山漁村活性化プロジェクト支援交付金を活用して「信州みよたクラインガルテン大星の杜・面替」を整備しました。また、事業用地の選定に当っては、佐久スマートインターチェンジから10分の距離というアクセス性が既存の農村交流活動等の実

績を踏まえ、面替区の大星地籍が選定されました。

当初、ラウベ付き専用農園8区画を含むクラインガルテンの供用開始は、平成27年4月を目標としておりましたが、建築工事等の発注スケジュールに遅れが生じ、工期延長が余儀なくされたことから、同年7月からの供用開始となりました。

一方、交流施設については、建築基準法に基づく長野県からの指導により、交流施設北側の擁壁補強工事を追加したことなどから、同年10月からの供用開始となりました。詳細な施設内容と経過、全体事業費については、次のとおりです。

事業費(平成24~28年度)

事業内容	事業費	うち、国補助金額
設計、建設等工事費	236,410千円	70,857千円
埋蔵文化財調査費	7,624千円	-
町道等付帯・関連工事費	20,116千円	-
ラウベ下屋等設置工事	6,912千円	-
進入路等拡幅工事費 ^{※1}	3,311千円	-
施設設備等工事費 ^{※2}	700千円	-
計	275,073千円	70,857千円

※1 進入路等拡幅工事費:平成27年度からの繰越事業
※2 施設設備等工事費:平成28年度補正予算事業

施設内容

施設内容	構造等(施設数)	施設面積
交流施設	木造平屋建(1棟)	186.32㎡
ラウベ	木造平屋建(8棟)	34.50㎡ (1棟)
	専用農園(8区画)	約120㎡ (1区画)
共同農機具置場	木造平屋建(1棟)	14.90㎡
共同菜園	共同利用(1区画)	約400㎡

これまでの経過

主な経過

年月	主な経過
H23年8月	クラインガルテン整備検討会発足
H23年9月	佐久市、立科町クラインガルテン視察
H23年11月	第1回クラインガルテン整備検討会 (H24年8月まで8回開催)
H23年11月	山梨県甲斐敷島梅の里、他視察
H24年3月	栃木県茂木町棚田の里、他視察
H24年9月	基本構想作成
H24年9月	地権者説明会
H24年9月	議会全員協議会にて事業説明
H25年3月 ～7月	埋蔵文化財発掘通知・確認
H25年4月	長野県御代田町面替地区活性化計画提出
H26年10月	造成建築工事施工監理委託業務契約
H26年12月	造成建築工事請負契約 (H26年12月3日～H27年3月29日)
H27年3月	造成建築工事工期変更契約 (H26年12月3日～H27年5月29日)
H27年4月	クラインガルテン整備事業面替区説明会
H27年5月	クラインガルテン運営協議会発足 第1回運営協議会開催(6回開催)
H27年6月	施設完成
H27年7月	ラウベ供用開始
H27年10月	交流施設供用開始
H27年11月	ラウベ利用者と地域交流事業
H28年3月	ラウベ下屋等設置工事
H28年3月	ラウベ利用者・地域住民による交流会

今後の取り組み

について

昨年7月のオープンに合わせ、町ホームページ等において、クラインガルテンの利用者を募集し、平成28年6月1日現在、8区画中6区画が既に利用されています。

平成27年度は、7月からの利用ということもありましたが、滞在利用者数は延べ363人となり、本年度は更なる増加が見込まれます。

現在、ソーシャルメディアを活用し、積極的な情報発信に努めています。併せて、地元メディア等への情報提供や周知の機会を活用し、8区画全てが利用されるよう取り組みを進めてまいります。

「初めて持つ鋤、初めて使う機械、面替の土の感触を全力で感じていきます。」

首都圏を中心としたクラインガルテンの利用者(ガルテナー)の皆さまは、ほとんどが農作業の初心者で、約120㎡の専用農園をどのように耕して苗を植え、管理して行けばよいのか手探りの状態です。そこで、農作業が初めてのガルテナーの皆さまにも安心して農作業体験をしていただけるように、地元の方に「農作業等相談員」を委嘱し、相談員の方から農機具の扱い方や地域に合った野菜の植え方などの説明を受けながら、全力で農作業を体験していただきます。



農作業中のガルテナー



クラインガルテン交流施設

また、クラインガルテンで体験する農作業以外にも、地域の風習や町の伝統・文化、行事など様々なことをお伝えしながら、クラインガルテンの外にも目を向けた地域交流が積極的に行われ、本事業が町全体の活性化に繋がるよう取り組んでまいります。

